

当社グループの持続的な企業価値向上の実現に向け、2000年から社外取締役の選任を行っています。今回は当社の社外取締役を務める立石義雄氏、村山昇作氏、齋藤茂氏の3名に、社外取締役としての役割、また当社グループのこれまでの変化や今後の企業価値向上について、それぞれの立場、目線からのメッセージを頂戴しました。

3名の社外取締役は、企業経営など多様な分野で重責を担われています。当社でも、各氏は豊富な知見、経験などにに基づき、取締役会での建設的な議論に貢献いただいています。

持続的な企業価値向上を目的に、監督機能を強化

取締役会にとってコーポレート・ガバナンスの強化は重要ですが、それは手段であり、取締役会の真の目的は、持続的な企業価値の向上にあることを忘れてはなりません。従って私は社外取締役として、持続的な企業価値向上を主眼においたコーポレート・ガバナンスの実効性を高めるための監督機能を重視しています。中でも人事と報酬は非常に重要な監督対象です。2015年11月に設置された指名・報酬諮問委員会を目的通りに機能させることに注力しています。

また、重要な業務執行についていえば、SCREENが販路拡大を進めるIoT関連や新規事業に関与するiPS細胞などの分野は、成長が望める領域であり、大いに期待しています。今後これらの分野を事業の柱として成長させるには、「顧客価値」に基づくビジネスモデルの創造が課題と考えます。製品を購入してくださる顧客のニーズだけではなく、製品から生み出される商品やサービスを実際に使用する消費者・生活者や社会にとっての価値、すなわち「顧客価値」が非常に重要となります。

今後、大きな投資を必要とする戦略的なテーマについても、社外ならではの意見を提示し、投資に対するリターン精度について大いに議論し、長年経営に携わってきた私の経験を生かしていく所存です。



立石 義雄

昭和38年4月 立石電機株式会社
(現オムロン株式会社)入社
昭和62年6月 同社代表取締役社長に就任
平成15年6月 同社代表取締役会長に就任
平成18年6月 当社取締役に就任
現在に至る
平成19年5月 京都商工会議所会頭に就任
現在に至る
平成23年6月 オムロン株式会社名誉会長
に就任 現在に至る



村山 昇作

昭和47年4月 日本銀行入行
昭和56年2月 同行ニューヨーク事務所エコノミスト
平成14年3月 帝國製薬株式会社代表取締役社長に就任
平成14年6月 四国化成工業株式会社社外取締役に就任
平成23年6月 iPSアカデミアジャパン株式会社代表取締役社長に就任
平成25年6月 当社取締役に就任 現在に至る
平成26年6月 東邦ホールディングス株式会社社外取締役に就任
現在に至る
平成26年7月 株式会社iPSポータル代表取締役社長に就任
現在に至る

企業成長を世の中の視点からサポート

私が社外取締役として心掛けていることは2つです。1つは、企業独特の考えや文化に偏り過ぎて、SCREENの社員、経営が世の中の常識とかけ離れてしまわぬよう気を付けることです。2つ目は、私自身の金融や製薬業界での経験と知見をSCREENの経営、とりわけライフサイエンス分野に生かしていくことです。取締役会では、内部の社員からは意見を出しにくい内容も含め、客観的な視点から積極的に発言することに努めています。

私には製造装置メーカーでの経験はありませんが、「研究開発」という意味では製薬会社も製造装置メーカーも同じだと考えます。既存分野の深掘り・特化に成功しているSCREENにとって、時代の変化に応じてコア技術を新しい分野へ展開していくことが今後の成長のカギとなります。そのための研究や調査に経営資源を投入するとともに、自由な研究を支援し、研究者の意欲をサポートする環境づくりをすることが重要と考えます。

今後も新規事業をサポートするとともに、積極的な研究開発、地道なコスト削減、ガバナンスのさらなる改善を通じて、好調な業績を維持できるよう、あらゆる機会を通じて私が持っている知識、経験、人脈や情報を活用したいと考えています。

社会の動向と事業のベクトルを合わせ成長につなげたい

シクリカルな業界に身を置く企業の成長を考える際、私が注視するのは、情報力を駆使した業績の平準化と、社員が会社をしっかりと理解し、同じ目標に向かって仕事をしていくことの2つです。

SCREENと同様、私が経営する企業も業績の波が大きな周期で訪れます。そこで、情報の収集・分析・コントロールに注力し、業績をより平準化することで、創業以来36年間黒字経営を維持しています。そのノウハウを伝えることも私の役割だと思っています。SCREENには、早い段階で専門的な分析機関を社内につくることを提案しました。情報網を張り巡らし、コントロールしながら世界の動向をつかんだ上で、経営資源を配分し、中長期的な判断をすることが重要だと考えるからです。

企業成長の基盤は、皆が進むべきベクトルを同じ方向へ合わせることです。そのためには、社内での方針説明や教育も必要ですが、さまざまなメディアも利用して、外側から会社の方向性を社員へ浸透、知らしめることが効果的です。同時に、広くステークホルダーの皆さまにもよくご理解いただくべきだと考えています。そうすることで会社はおのずと強くなります。

今後もSCREENでは、一緒に未来を見据えつつ、コンテンツ業界の専門的な知識を生かしてさまざまな角度から提言、助言を行っていきたいと考えています。



齋藤 茂

昭和54年11月 株式会社トーセ入社
同社開発本部長
昭和62年2月 同社代表取締役社長に就任
平成16年9月 同社代表取締役社長兼
CEOに就任
平成25年6月 当社取締役に就任
現在に至る
平成27年12月 株式会社トーセ 代表取締
役会長兼CEOに就任
現在に至る